

寺だより

25/04/06
第 115 号

真宗大谷派
青龍山西光寺
珠洲市正院町正院

咲くもよし 散るもよし
花は嘆かず 今を生きる



桜満開（西光寺地内 03/27）

いられ、インフラの復旧や住宅再建も
思うように進んでいません。
人生は何事も自分の思い通りになれ
ばよいのですがなかなかそのようには
いかないようです。
新しい年を迎え、期待や不安に満ち
た新たな日々が始まりましたが、三月
中に西光寺では、早咲きの桜が満開と
なりました。西光寺敷地に毎年花を咲

昨年一
月一日に
発生した
能登半島
地震から
一年以上
が経過し
ました。
しかし、
いまだに
多くの方
々が避難
生活を強
迫されて
います。
過去を悔やみながら過去に生きてい
る人。未来に不安を感じ今をおろそか
にしている人。人は誰もが過去に縛ら
れ、未来に不安を抱え生きています。
しかし、過去には戻れませんし、未来
はまだ来ません。私たちは今を生きて
いるのです。今を生きていくことは
大切なことです。

表題の言葉の元歌は、坂村真民作の
詩「咲くも無心 散るも無心 花は嘆
かず 今を生きる」です。
「今」を生きていくというのは難しいこ
とだと思いますが、何かに行き詰った
時にぜひこの詩を思い出してください。
あれこれ考えて頭の中がいっぱいの時
に思い出すといいかもしれません。

かせていますが、今年もたくさんさんの花
を咲かせてくれました。
私を含め、人は何かあるとすぐに愚
痴を言ったり、わがままを言ったりし
ます。

しかし花は、咲く時も散っていく時
も、恨んだり悲しんだりせず、ありの
ままに生きています。春が来ても冬が
来ても、一心になすべきことをなして
いる桜の木は、私たちがどのように生
きたらいいかを無言で教えてくれてい
るように思えます。



におかれましては万障お繰り合わせの
上ご参集いただければ幸いです。

「へんじゃ参り」は中止します。

四百年の歴史に感謝をこめて
本堂解体名残法要兼
西光寺全門徒物故者追悼法要

□ 四月十二日（土）午後一時より
□ 西光寺本堂前参道にて

来る 4 月 12 日
（土）、公費解体
作業が始まる前
に、本堂前で本堂
解体名残法要並び
に西光寺全門徒物
故者追悼法要をお
勤めいたします。
本堂は使えませ
んの、本堂前の
参道で行います。
ご縁ある皆さま

真宗大谷派宗議会視察団来寺 3/25
議員さん16名視察に訪れる



視察団の方に被災状況を説明

のお見舞いと調査においでました。
一口メモ 宗議会とは

真宗大谷派の最高議決機関を「宗議会」といいますが、僧侶で構成する「宗議会」と門徒で構成する「参議会」で組織され、宗派の予算、条例案などが審議されます。

伝統建築の魅力「木鼻」救出

木鼻（きばな）とは、柱を貫通する頭貫（かしらぬき）・肘木（ひじき）・虹梁（こうりょう）の柱から突き出た部分の名称です。名称の由来は、「木の

三月二
十五日

（火）、本
山より真宗
大谷派宗議
会議員さん
十六名が、
能登教務所
所長さんと
共に西光寺
へ震災被害



西光寺の木鼻・獏

端↓木端」から漢
字が変わり「木鼻」
と呼ばれるようにな
りました。

もとは頭貫や肘
木、虹梁の柱から直
飛び出る部分を直
接加工していましたが、江戸時代以降、
装飾目的が強くなるにつれ、頭貫や肘
木、虹梁とは分けて、独立した部品と
することが主流となりました。

木鼻は社寺建築の美しさを演出する
だけでなく、その時代の文化的な資
料としても貴重な価値のある部位です。
初期の頃は、シンプルなものでしたが、
次第に獅子や龍、象や獏（ばく）など
の複雑で繊細な彫刻が施されるようにな
りました。

西光寺の木鼻は、「獏」です。

公費解体

前に、昨年
秋取り外し
ました。再
利用は難し
いので、台
座を付けて
モニユメン
トとして残
そうと考
えています。



地面に下ろされた木鼻

御文

下間蓮崇 伝 第一回

ご法事の後に拝読され、あなかしこ、
あなかしこで終わる「御文（おふみ）」。
「御文」とは、蓮如上人がご門徒た
ちに宛てた「お手紙」で、真宗の教え
がわかりやすく、しかも簡潔に書き表
されています。この「御文」の特徴は、
ご門徒たちに広く公開されたことです。
法座につらなつた様々な人々は、蓮如
上人の「御文」を受け取った人から、
その内容（教え）を耳から聴いて、多
くの人たちが、阿弥陀さまに、そして
親鸞聖人に出遇っていかれました。
御文はいわば、「読む」というよりも
「聴く」という性格のものでした。
しかし、蓮如上人は、はじめから「御
文」による伝道を考えられていたの
ではなく、ある男の進言によつて本格的
な執筆活動に取り組まれたようです。
その男の名は「下間安芸法眼蓮崇（し
もつまあきのほうがんれんそう）」通称
「蓮崇（れんそう）」と言います。
初め、蓮崇は文字の読み書きができ
ませんでしたが、仮名文字の書写から
始め、次に漢文を習い、やがてお経の
書写までも短期間のうちに身に付けて、

その才学は蓮如上人の目に止まり、蓮如上人に仕えるようになりました。

蓮崇は、蓮如上人の「蓮」の一字を名前に頂戴し、代々本願寺の坊官（寺院などで事務を担当した僧）であった下間氏の姓を与えられたほど蓮如上人に信頼された人物でした。

アイデアマンであった彼は、布教方法や組織作りなどにマルチな才能を発揮しました。

しかし、蓮崇は蓮如上人によつて、破門されます。いったいどんな人生を歩んだのでしょうか。

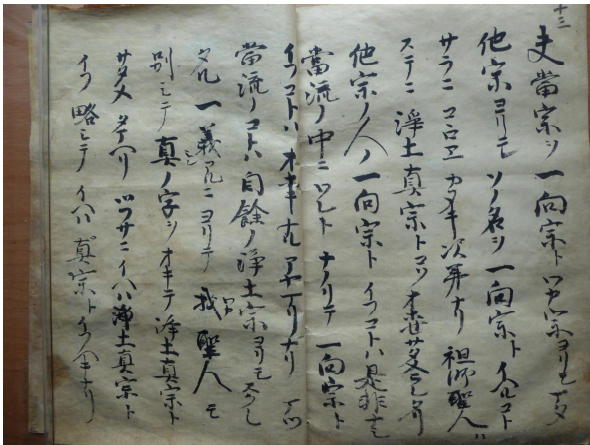
蓮崇という男

彼の本名は心眼（しんげん）といい、越前・浅水村（現福井県福井市麻生津）の出身で、よく安芸国（現広島県）に行き来していたので、人からは「安芸」と呼ばれていました。

蓮崇が本願寺に現れた時期ははつきりしていませんが、三十五歳ぐらいの時、高野山へ参拝しようとした際に、高野山ではなく、本願寺に参詣することを勧められたのが縁で、蓮如上人の説法を聴聞したところ、教えに感銘を受けて、蓮如上人に帰依しました。

読み書きができなかった蓮崇は、「いろは48文字」から字を学び始めまし

た。すると、あつという間に平仮名を覚えた彼は、更に漢字を習得し、經典の写経まで行えるようになりました。教養読み書きができなかったのはこれまで学ぶ機会がなかったからでした。ところで、蓮崇の上洛からまもなく、比叡山の攻撃を受け、お堂を破壊されてしまいます。滋賀県大津の三井寺に頼つて一時の安住を得た蓮如上人ですが、比叡山の弾圧は執拗に続きました。意を決した蓮如上人は、ついに都から遠く離れた越前吉崎を布教の新天地に選びます。時に文明三年（一四七一）、上人五十七歳の決断でした。（次号に続く）



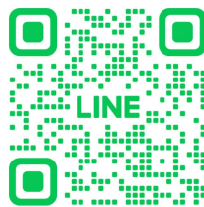
御文・蓮崇書写本

西光寺ライン公式アカウント開設！ 友だち募集中！

西光寺ライン公式アカウントでは、寺だよりやへんじやまいりや報恩講などのお参りについての情報を配信しています。

友だちの追加方法

左光に
い、西
使用、だ
をと、友
を、だ
ラ、だ
メ、だ
カ、だ
の、だ
オン、だ
フ、だ
スマート
スのQR
下のライ
寺のライ
追加でき



出儀、LINEで
葬儀、LINEで
の後、LINEで
は、今、LINEで
連絡、やす、LINEで
す、やす、LINEで
来、ま、問、式、気、さ
の、こ、問、式、気、さ

本山からのお知らせ

- ① 災害用三折御本尊（三折本尊・勤行本2冊）の提供【無償】
- ② 帰敬式法名紙の再交付【無償】

※本山において法名を染筆後お渡しいたします。

ご希望の方は、西光寺までご連絡下さい。

西光寺ホームページ

■公開 URL

<https://syoinsaikouji.com>

■サイト名

蓮如上人ゆかりの寺西光寺



スマートフォンをお持ちの方は、スマートフォンのカメラを使い左

のQRコードを読み込み、西光寺サイトにお越し下さい。

令和7年1月1日、西光寺ホームページを公開いたしました。

これからこのホームページを使いお寺の行事や案内、行事の報告などを発信していきます。

仮設住宅での作業ゆえ、思うような画面になっていませんが、不十分なままでも取り敢えず発信し、追い追い良いものに仕上げて行きたいと思っています。

ご一読いただければ幸いです。



令和六年能登半島地震
豪雨犠牲者
追弔法会兼同朋大会
法話 白山市浄土寺住職 大窪 康充師
日時 四月二十日(日)午後一時
会場 ラポルトすず大ホール
主催 真宗大谷派能登教区 第十組
子どもの広場・歌・人形劇もあります

※法要の後に 宗派を問わず、どなたでもお参りください
炊き出し・支援物資配布します

Ⅱ編集後記Ⅱ

仮設住宅より

道路ができて、インフラが整い、家が建てられるから新しいまちが始まるのではないと思います。

復旧・復興を考える上でいちばん大事なのは、そこに住んでいる人です。人の心が折れてしまったら、道をつくっても、建物が完成しても、地域の復興はできないと思います。

この珠洲の地に住む私たちが希望を持って自分たちの地域について考え、まちづくりをすすめていくような「人間の復興」が大事だと思います。

「人間の復興」には、「精神のより所」として神社仏閣は不可欠だと思います。

浄土真宗のお寺は念仏の道場で、生きること確かめ合う場所です。お寺の役割を再定義し、新しい仕組みを取り入れることで、地域社会におけるお寺の存在意義を高めることができます。

西光寺が、「人間の復興」の一助となることを願い、ご門徒さんと一緒に西光寺を復興したい、そう思うことです。

南無阿弥陀仏